（40期）

（2023年10月～2024年9月）

環境経営レポート

2025年2月14日　発行

株式会社　タイヤチップセンター

目　次

計画の策定（Plan）

1. 組織の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

2. 対象範囲（認証・登録範囲）・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

3. 環境経営方針・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5

4. 環境経営目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6

5. 環境経営計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7

計画の実施（Do）

6. 環境経営計画に基づき実施した取組内容・・・・・・・・・・ 8

取組状況の確認及び評価（Check）

7. 環境経営目標及び環境経営計画の実績・取組結果とその評価、並びに今後の取組・・・・・・・・・・・・・・ 11

(1)環境経営目標の実績・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11

(2)環境経営計画の取組結果とその評価・・・・・・・・・・・・12

(3)次年度の取組内容・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13

8. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟などの有無・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14

全体の評価と見直し（Act）

9. 代表者による全体評価と見直しの結果・・・・・・・・・・・・ 14

1. 組織の概要

(1)事業所名及び代表者名

株式会社　タイヤチップセンター　　代表取締役　白井　文平

(2)所在地

〒816-0912　福岡県大野城市御笠川一丁目16番13号

(3)環境管理責任者及び担当者の連絡先

環境管理責任者：白井　文平　　担当者：川崎　辰浩

連　絡　先　　：TEL　092-503-0002　　FAX　092-503-0095

Emailアドレス　kawasaki@tiretipcenter.co.jp

(4)事業の概要

廃タイヤの収集・運搬及び中間処理

URL http://www.tiretipcenyer.co.jp/

(5)事業の規模

区分	単位	38期 2022年度 （2021年10月～2022年9月）	39期 2023年度 （2022年10月～2023年9月）	40期 2024年度 （2023年10月～2024年9月）
処理量	t	10,992	11,214	11,970
従業員数	人	31	32	33
延べ床面積	㎡	5,244	5,244	5,244

(6)法人設立年月日

1984年10月3日

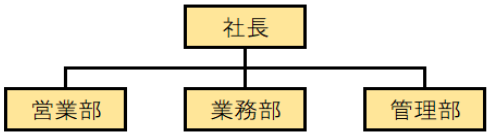
(7)資本金

500万円

(8)売上高

2024年度　（29,000万円）

(9)組織図



(10)許可の内容

■産業廃棄物処分業許可

区分	許可年月	有効期限	許可番号	許可品目
福岡県	2024年12月18日	2029年12月17日	4020000919	中間処理（破砕）：廃プラスチック 中間処理（切断）：廃プラスチック

■産業廃棄物収集運搬業許可

区分	許可年月	有効期限	許可番号	許可品目
福岡県	2024年12月18日	2029年12月17日	4000000919	廃ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ類、金属くず ｶﾞﾗｽくず等、廃油、ｺﾞﾑくず
佐賀県	2022年11月16日	2027年11月15日	4103000919	廃油、ｺﾞﾑくず、がれき類、廃ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ類 金属くず及びｶﾞﾗｽくず・ｺﾝｸﾘｰﾄくず・陶磁器くず
長崎県	2021年8月26日	2026年8月25日	4200000919	廃ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ類、ｺﾞﾑくず､金属くず ｶﾞﾗｽくず・ｺﾝｸﾘｰﾄくず・陶磁器くず
熊本県	2022年10月31日	2027年10月25日	4305000919	廃ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ類､金属くず､ｶﾞﾗｽくず ｺﾝｸﾘｰﾄくず及び陶磁器くず、ｺﾞﾑくず
大分県	2020年3月22日	2025年3月21日	4407000919	廃ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ類
宮崎県	2015年6月22日	2025年6月21日	4501000919	廃ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ類
山口県	2024年9月15日	2029年9月14日	3500000919	廃ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ類、金属くず ｶﾞﾗｽくず、ｺﾞﾑくず

■特別管理産業廃棄物収集運搬業許可

区分	許可年月	有効期限	許可番号	許可品目
福岡県	2023年1月14日	2028年1月13日	4050000919	廃酸

保管場所面積：219㎡　　（処理前産業廃棄物）

(11)運搬車両の種類と台数

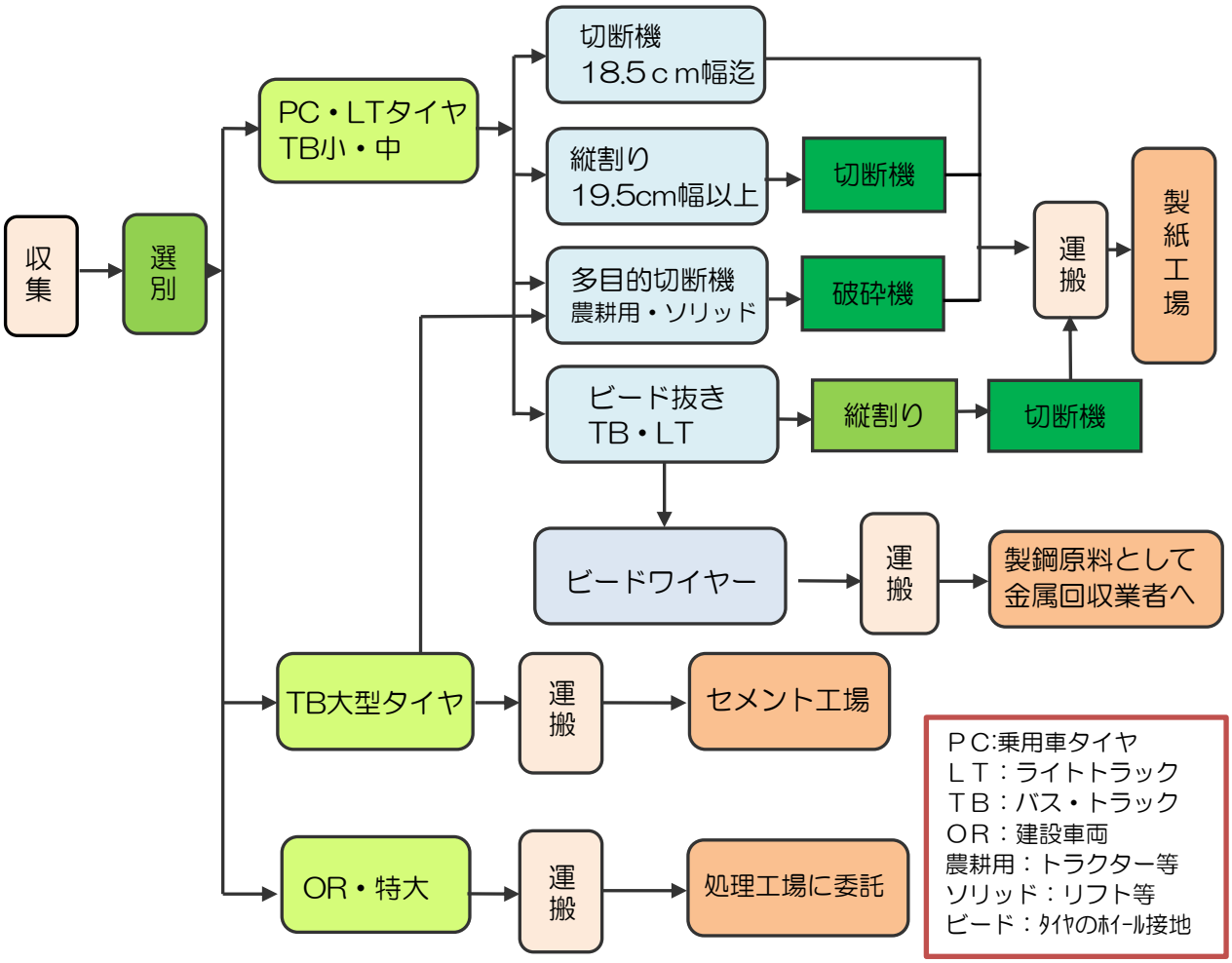
27ｔトレーラー	2台	3.5ｔキャブオーバー車	9台
16tダンプトレーラー	1台	3ｔキャブオーバー車	3台
10ｔキャブオーバー車	1台	2ｔキャブオーバー車	1台
6ｔキャブオーバー車	1台	1.5ｔキャブオーバー車	1台
5ｔキャブオーバー車	1台	軽トラック	2台
4ｔキャブオーバー車	1台		
4ｔダンプ車	1台	合計	24台

(12)処理施設の種類、処理する産廃の種類、処理能力（規模）、処理方法

施設の種類	：	破砕施設
品　　目	：	廃プラスチック類
設置年月日	：	1985年10月8日
所　在　地	：	福岡県大野城市御笠川１丁目１６番１３号
処理能力	：	破砕40.3ｔ／日　　切断71.5ｔ／日
稼働時間	：	8ｈ／日

計画の策定（Plan）

(13)処理工程図



(14)処理実績

（2023年10月 ～ 2024年9月）

処理方法等		廃棄物等種類	処分方法等	処理量(t)
（ｉ）収集運搬		廃タイヤ		11,970
収集運搬量合計				11,970
（ⅱ）中間処理		廃タイヤ	選別・切断・破砕	11,970
	うち再資源化	カットタイヤ	選別・破砕・切断後燃料化	11,261
		ビードワイヤ	ビード抜き後鉄鋼原料化	278
		丸タイヤ	焼成原料化（UBE三菱）	431
		再資源化等量小計		11,970
中間処理合計				11,970
（ⅲ）最終処分				
最終処分量合計				0
（ⅳ）中間処理後の産業廃棄物	最終処分	（残渣なし）		0
	再資源化等			0
		再資源化等量小計		0
中間処理後処分量合計				0

2. 対象範囲（認証・登録範囲）

(1)対象事業所

本社

(2)対象活動

廃タイヤの収集運搬及び中間処理

(3)対象外事業所・活動

なし（全組織、全活動、全従業員が対象）

３．環境経営方針

【環境経営理念】

地球規模での環境の変化や企業の社会的責任が強く問われるようになった昨今、私たちの会社は発生した廃タイヤを素早く回収して、チップ化処理することで工場等の燃料として再資源化することを主な仕事としており、廃棄物の適正処理を通じて循環型社会づくりに貢献します。

また、事業活動を行うに当たっては、地域の皆様に信頼される企業になることを使命と考え、環境保全を経営の大きな柱として位置付け、環境経営の継続的改善に努めて参ります。

【環境行動方針】

環境経営システムを構築・運用し、適時見直しながら、以下を重点項目として取り組みます。

1. 事業活動における省エネルギー、省資源、リサイクルの推進、節水、グリーン調達に積極的に取り組み、環境負荷の低減に努めます。

2. 再生可能エネルギーの利用、収集運搬車はエコドライブに努めて二酸化炭素排出量を削減します。

3. 会社及び周辺地域の美化活動を積極的に推進し、より良い地域環境の実現に貢献します。

4. 環境経営方針を全社員が理解し、環境保全を意識した活動が出来るよう教育訓練を行います。

5. 法令を遵守します。

6. 環境経営レポートを作成して、私たちの活動の結果を社外にも公表します。

2008年3月21日 制定
2020年10月1日 改訂

株式会社　タイヤチップセンター
代表取締役　白井文平

4．環境経営目標

・当社の事業活動で発生する環境負荷等の実態を踏まえて、40期の環境経営目標は以下の4項目6目標を設定しました。

・今年度は破砕機1基を増設予定ですが、電気使用量については常時ウェブでチェックできる機器を導入して稼働をコントロールし、廃タイヤ回収量の増加分以上に増えない目標としました。

・なお、「受託した産業廃棄物の収集運搬・処分における環境配慮」については、環境経営方針の基本理念である 「受託廃棄物の適正処理を通じた循環型社会の実現」の考え方に基づき、「廃タイヤ回収量の増加」を環境経営目標に掲げ、目標達成に向けて取り組みました。

環境経営目標	単位	基準年	単年度目標	中長期目標	
		40期	41期	42期	43期
		2023/10～2024/9	2024/10～2025/9	2025/10～2026/9	2026/10～2027/9
1. 二酸化炭素排出量の削減	kg-CO_2	326,218	322,955	319,693	316,431
(1)電気使用量の削減 (破砕機1基増設分をコントロール)	kWh	280,962	278,152	275,342	272,533
(2)軽油使用量の削減 （基準年実績より10%削減）	ℓ	124,235	122,992	121,750	120,507
2. 一般廃棄物（可燃ごみ）排出量の削減 （基準年実績を維持）	kg	2,210	2,187	2,165	2,143
3. 総排水量の削減 （漏水分を除いた水使用量を維持）	m^3	871	862	853	844
4. 廃タイヤ回収量の増加 （基準年実績値を維持）	t	11,970	11,970	11,970	11,970

備考）・電力の二酸化炭素排出は、新電力会社との契約により二酸化炭素排出係数は0となった。
・可燃物の排出量は、指定ごみ袋（燃えるごみ袋）1個を10kgとして計算した。
・化学物質は使用していないので、目標から除外した。

5．環境経営計画

・環境経営目標を達成するため、以下の具体的な活動項目を決めて全社員で取り組みま
・取組に当たっては、活動項目の担当者を決め、取組目標の責任者（EA21チーム構成メンバー）を配置し、担当者から報告を受けた責任者が毎月の実施状況を所定の書式に記録して確認し、これを環境管理責任者が四半期毎に評価するチェックシステムを構築して、目標達成に努めました。

１．二酸化炭素排出量の削減（245,100kg-CO_2以下で操業）

取組目標		責任者		活動項目	担当者
(1)	電気使用量の削減	下馬場	1	エアコンの設定温度を決め、実行する	下馬場
			2	使用しない電灯・電源は消す	
		下馬場	3	デマンド警報 130kW以内での操業	下馬場
			4	作業の効率化（朝礼時に作業工程確認）	
(2)	軽油使用量の削減	水上	1	エコドライブ（アイドリングストップ）の徹底	水上
			2	定期点検整備の実施	
			3	タイヤの空気圧を定期的に確認	
			4	収集経路の効率化（ミーティング時に確認）	

２．一般廃棄物（可燃ごみ）排出量の削減（基準年40期実績を維持）

取組目標		責任者		活動項目	担当者
(1)	一般廃棄物（可燃ごみ）排出量の削減	田中	1	リサイクル可能な紙やペットボトルの分別を徹底し、指定ごみ袋の発生量をチェック	田中

３．総排水量の削減（漏水修理完了で予測数値を目標設定）

取組目標		責任者		活動項目	担当者
(1)	総排水量の削減	岡本	1	洗濯機の利用を管理	岡本
		岡本	2	散水・ミストの管理	岡本

4．廃タイヤ回収量の増加（基準年38期実績値から特別回収分を除き前年維持）

取組目標		責任者		活動項目	担当者
(1)	廃タイヤ回収量の増加	下馬場	1	回収本数・走行キロ・通行料の集計（効率アップ）	下馬場
		渕上	2	中間処理施設のメンテナンスの徹底・強化（タイヤチップの品質向上・安定）	下馬場

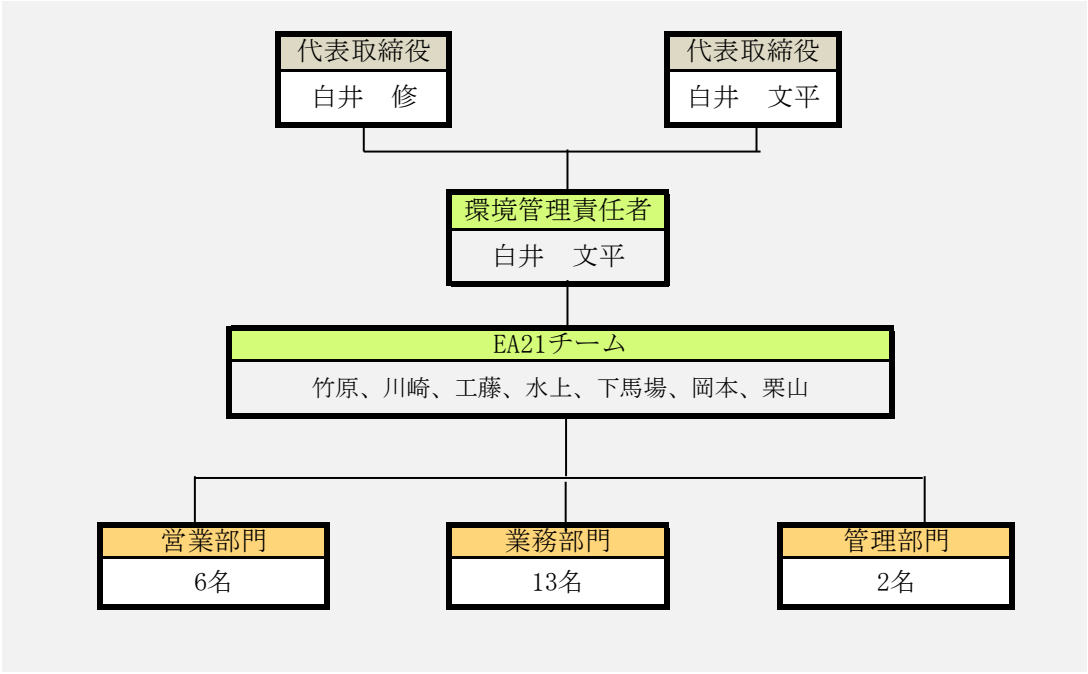
【当社の取組状況のチェック体制】

1.活動項目担当者は、毎月5日までに前月の実施状況を取組目標責任者に報告する。
2.取組目標責任者は、実施状況の報告内容と目標に対する実績値を、「環境目標の達成状況及び環境活動計画の実施状況、その評価結果」に記録する。
3.環境管理責任者は、３ヶ月毎にこれらの確認結果について評価するとともに、問題があると判断されたら、当該取組目標責任者に是正処置の実施を指示する。
4.指示された取組目標責任者は、是正処置を実施する。

６．環境経営計画に基づき実施した取組内容

・2024年度(40期）に当社が実施した環境への取組は、以下のとおりです。
・なお、実施に当たっては、社内に次のような実施体制を構築して、全社員が一丸となって取り組みました。

（１）エコアクション21実施体制



EA21チームからの社内説明会風景

（２）2024年度(40期）運用期間に実施した環境への取組

二酸化炭素排出量の削減取組

電　気　　車　輌　　整　備

社内・工場内すべてLEDへ

収集運搬車両を順次新車へ

車両管理の実施

・社内・工場内すべての照明をLEDへ変更した。

・破砕機・切断機の同時稼働を制御して電気使用量をコントロールしている

・収集運搬車両を燃費の良い新車へ、順次入れ替えを行っている。

一般廃棄物（可燃ごみ）排出量の削減取組

整　理　　整　頓　　清　掃

ゴミ捨て場

社員休憩場

定期清掃の徹底

・ゴミ捨てルールの徹底、ゴミ袋の在庫管理。

・休憩場を常に綺麗に保つ事により、全体のゴミ量削減の意識付けを行う。

計画の実施（Do）

総排水量の削減取組

断　熱　　ミスト　　メーター

屋根断熱工事

冷却ミスト

水道メーター

- 屋根断熱工事を行い、工場内や機械冷却の為に必要な水の削減に取り組む
- ミストの使用基準を決め、効率の良い冷却、及び節水を行った。
- 水道メーターをチェックし、使用量の数値を、毎月の会議で検討する。

廃タイヤ回収量の増加取組

無　線　　洗車用品　　在庫管理

GPS無線の活用（全車両）

営業車輌清掃用、他タオル

石鹸、洗剤類ストック

- 効率よく廃タイヤ回収するために、GPSの位置情報及び、スマートフォンのクラウドサービス活用を進化させ、各部署超えた連携で回収効率が上がりました。
- 営業車輌を大事に扱うことで、故障等の予防にもなる、綺麗な車輌で外部へのイメージアップも図る。
- 清潔を意識し、清掃活動に取りかかりやすい環境を常に創っている。

７．環境経営目標及び環境経営計画の実績・取組結果とその評価、並びに今後の取組

（１）環境経営目標の実績

・（40期）の環境経営目標達成状況は以下のとおりであり、設定した4項目6目標のうち、2項目2目標のみの達成でした。

・回収エリアが広がり回収量も増えたことで、電気・軽油とも使用量が目標をオーバーしました。水使用量が増えたのは猛暑対策でミストを増設したことが主な原因です。廃タイヤの回収は順調で、一般廃棄物の排出量もコントロールできています。

環境経営目標	単位	基準年	40期		目標達成率	目標達成判定
		39期実績値	(2023/10～2024/9)			
			目標	実績		
1. 二酸化炭素排出量の削減	kg-CO_2	285,580	361,489	326,218	109%	○
(1)電気使用量の削減（破砕機１基増設分をコントロール）	kWh	254,587	266,587	280,962	95%	△
(2)軽油使用量の削減（基準年実績より3%削減）	ℓ	107,408	108,000	124,235	86%	△
2. 一般廃棄物（可燃ごみ）排出量の削減（基準年実績より4%削減）	kg	2,380	2,400	2,210	105%	○
3. 総排水量の削減（漏水分を除いた水使用量を維持）	m^3	722	722	871	82%	△
4. 廃タイヤ回収量の増加（基準年実績を維持）	t	11,214	11,000	11,970	107%	○

（備考）・目標達成率の計算方法　削減目標：目標÷実績×100　、　増加目標：実績÷目標×100
・目標達成の判定区分　◎：目標達成率120%以上、○：100%以上120%未満、△：80%以上100%未満
×：80%未満、－：判定不可

取組状況の確認及び評価（Check）

（２）環境経営計画の取組結果とその評価

・（40期）の環境への取組結果は以下のとおりであり、各環境経営目標の全活動項目で適切に実施することが出来ました。しかし、目標と取組との関係から目標未達成項目もみられることから、今後も全社員で取組を継続していきます。

１．二酸化炭素排出量の削減　（基準年実績を維持）

取組目標		目標達成状況	活動項目		取組実施状況
(1)	電気使用量の削減	△	①	室温を決めてエアコンで調節する	○
			②	使用しない電灯・電源は消す	○
			③	デマンド警報 130kW以内での操業	○
			④	作業の効率化（朝礼時に作業工程確認）	○
(2)	軽油使用量の削減	△	①	エコドライブの徹底	○
			②	定期点検整備の実施	○
			③	タイヤの空気圧を定期的に確認	○
			④	収集経路の効率化（ミーティング時に確認）	○

備考）目標達成状況区分　◎：目標達成率120%以上、○：100%以上120%未満、△：80%以上100%未満、×：80%未満、－：判定不可
取組実施状況区分　◎：よく実施できている（定着）　○：実施できている、△：概ね実施できている、×：実施出来ていない、－：判定不可

２．一般廃棄物（可燃ゴミ）排出量の削減（基準年実績を維持）

取組目標		目標達成状況	活動項目		取組実施状況
(1)	可燃ごみ排出量の削減	○	①	リサイクル可能な紙やペットボトルの分別を徹底し、指定ごみ袋の発生量をチェック	○

３．総排水量の削減（基準年実績の維持）

取組目標		目標達成状況	活動項目		取組実施状況
(1)	総排水量の削減	△	①	洗濯機の利用を管理	○
			②	散水・ミストの管理	○

4．廃タイヤ回収量の増加（基準年実績値を維持）

取組目標		目標達成状況	活動項目		取組実施状況
(1)	廃タイヤ回収量の増加	○	①	回収本数・走行キロ・通行料の集計（効率アップ）	○
			②	中間処理施設のメンテナンスの徹底・強化（タイヤチップの品質向上・安定）	○

（３）今後の取組

・例年取り組んでいる「効率アップ」は作業手順の見直しや、新しい機器の導入で効果を上げてきましたが、40期は1名の新しい人材の加入により大きく進化することができました。41期も人材募集を続けながら、規模拡大の中で組織で動くことを意識し、５S、報連相の仕組み等の基本を見直し再構築することで効率アップを目指します。

・ホームページがリニューアルされ、環境経営レポートを公表。環境へのかかわりに気づき、目標をもち、行動していく事が期待されます。

・40期の一番の成果は、毎月行われる会議の精度が上がったことにより、各部門の担当者が数値の管理、理解を深められたこと。四半期ごとの見直しではPDCAを回す形ができたことです。私たちの仕事を進化させ、効率を上げながら本業の規模を拡大していくことを念頭に置いて40期の環境経営目標を以下のとおり策定しました。また、環境経営計画は本年度の取組内容を引き続き継続することとしました。

2024年度（40期）の環境経営目標

環境経営目標	単位	基準年	単年度目標	中長期目標	
		40期 実績値 (2024年度)	41期 (2025年度)	42期 (2026年度)	43期 (2027年度)
		2023/10～ 2024/9	2024/10～ 2025/9	2025/10～ 2026/9	2026/10～ 2027/9
1. 二酸化炭素排出量の削減	kg-CO_2	326,218	322,955	319,693	316,431
(1)電気使用量の削減 (基準年実績を維持)	kWh	280,962	278,152	275,342	272,533
(2)軽油使用量の削減 (基準年実績を維持)	ℓ	124,235	122,992	121,750	120,507
2. 一般廃棄物（可燃ごみ）排出量の削減 (基準年実績を維持)	kg	2,210	2,187	2,165	2,143
3. 総排水量の削減 (漏水分を除いた水使用量を維持)	m^3	871	862	853	844
4. 廃タイヤ回収量の増加 (基準年実績を維持)	t	11,970	11,970	11,970	11,970

備考）・電力の二酸化炭素排出係数は、38期より新電力の会社と契約し排出係数0となった。
・可燃物の排出量は、指定ごみ袋（燃えるごみ袋）1個を10kgとして計算した。
・化学物質は使用していないので、目標から除外した。

取組状況の確認及び評価（Check）

8. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟の有無

・当社に適用される主な環境関連法規等は以下のとおりであり、40期（2024年度）の事業活動において遵守状況を確認した結果、違反はありませんでした。

・また、関係機関等からの違反の指摘、利害関係者からの訴訟等も過去3年間ありません でした。

	法規等の名称	主な遵守事項	遵守結果
1	廃棄物処理法	・収集・運搬基準 ・マニフェストの交付・管理 ・産業廃棄物処理施設の維持管理 ・処理実績の報告	○
2	消防法	・少量危険物貯蔵・取扱の届出書提出	○
3	道路運送車両法	・過積載の禁止	○
4	労働安全衛生法	・フォークリフト等特自検	○

備考）遵守結果区分　○：遵守　×：不遵守　－：該当なし

全体の評価と見直し（Act）

9. 代表者による全体評価と見直しの結果

＜環境活動の実施と数値目標の達成状況＞

委員会メンバーが毎月の委員会へ積極的な姿勢で臨んでいるように感じています。委員会メンバー以外の社員への働きかけも工夫しながら改善活動を行っているので、結果の変化に興味が出てきている表れだと思います。目標の達成状況では電気、燃料、水と本業に大きく関わる部分が未達であったので、目標の設定から日々の心がけまで再度見直しをして取り組んでいただきたいです。

＜環境経営方針・環境経営システム＞

「連携して仕事を進める」という言葉を社内でよく聞きますが、社員の多くから問題点として挙がるのも「連携できていない」という話です。今一度何がどうなっている状態を「連携がとれている」とするのか具体的事象で話し合ってみてください。問題点を塊とせず、一つずつ細かく具体的に分解してそれぞれに対処することが重要です。仕事の棚卸を進めて効率よくムリムダの少ない仕事へ進化させてほしいと思います。

全体的な取組みへの意欲の高さや頻度等は評価できると思います。このまま継続して次の目標を立ててください。目標の設定については若干チャレンジ精神に欠けるように感じますので視座を高くして抜本的な改善に辿り着けるようにしましょう。また、せっかくの取り組み内容の発信頻度が少ないように思います。あまり難しく考えずホームページ、SNSを活用しもっと細かいところや自分たちでは当たり前になっていることに目を向けて発信の頻度を上げていってください。

代表取締役　白井　文平